かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-1

かわさきしゅく
川崎宿

出典:「東海道五十三次 川崎」歌川広重

エリア	中央地区 川崎駅前北～川崎駅前南	シーズン	通年
		日時	

目的	■ 観る　■ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　■ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	六郷橋付近から八丁畷駅付近まで
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会 東海道かわさき宿交流館
TEL	044-221-9117（かわさき歴史ガイド協会） 044-280-7321（東海道かわさき宿交流館）
FAX	044-221-9117（かわさき歴史ガイド協会） 044-280-7314（東海道かわさき宿交流館）
E-mail	
URL	http://www.city.kawasaki.jp/61/61kusei/kawasakijuku/index.htm （東海道川崎宿２０２３）
交通	

マップ

基礎情報

■元和9年(1623)、品川・神奈川間の伝馬継立を短縮して伝馬百姓の負担軽減のために開設された宿場町。小土呂・砂子・新宿・久根崎の四村（現在の小川町から六郷川まで）で構成された。当初、川崎宿は伝馬の負担で財政難に陥ったが、宝永元年(1704)に本陣職を継いだ田中休愚は5年後の宝永6年(1709)に渡し船の川崎宿での請け負いを実現させ、財政は再建された。やがて川崎大師への参拝客の増加とともに川崎宿も大きなにぎわいを見せる。
■東海道川崎宿起立400年になる2023年に向けて『東海道川崎宿2023』が発足した。川崎宿の歴史を活かしたまちづくりを地元の人が中心になって活動している。お問い合わせは、川崎区役所地域振興課（TEL 044-201-3136）まで。

由来・エピソード

■徳川幕府により、東海道に宿駅伝馬制度（街道沿いに宿場を設け、公用の旅人や物資の輸送は無料で次の宿駅まで送り継ぐという制度）が敷かれたのが慶長6年(1601)。川崎宿はそれより遅れること22年経った後の元和9年(1623)に三代将軍家光によって追加制定され東海道で最後の方に成立した宿駅で、正規の宿駅として開設されて以降宿駅の機構や宿場町の整備が進められた。
■開設当初にはまだ本陣がなく、伝馬の負担で財政は苦しく、宿場廃止を求める声まで出たが、それを救ったのが田中休愚であった。本陣職を継いだ休愚は六郷川の渡し船を川崎宿で請け負えるよう幕府と交渉し、宝永6年(1709)に実現させて、その収入を伝馬の費用にあてることで宿場の財政を立て直した。その甲斐あって、川崎宿は東海道を上る旅人が昼食や休息をとる宿場として、また、江戸に下る旅人にとっては六郷の渡しを控えた最後の宿泊地として賑わった。
■11代将軍家斉が厄除けで有名な川崎大師を公式参詣して以来、大師信仰の広がりとともに、川崎宿はさらに栄えた。旅人だけでなく多くの参拝客で往来は賑わい、幕末には下田から江戸へ向かったアメリカ総領事ハリスも宿泊したといわれている。

補足・その他

■平成20年(2008)、川崎宿京口跡付近（川崎区小川町10-1）に川崎宿史跡総合案内板を設置。また、総合案内板の隣に関札（宿場に休憩又は宿泊する大名などの名前が書かれた看板）を復元した。
■平成23(2011)、川崎宿京口跡付近（川崎区小川町10-1）にも総合案内板を設置した。

関連シート

(1-3)万年跡
(1-6)田中本陣跡
(1-9)川崎・砂子の里資料館
(1-11)問屋場跡
(1-25)佐藤本陣跡・佐藤惣之助の碑
(5-1)六郷の渡し・明治天皇の碑
(32-6)NPO法人かわさき歴史ガイド協会

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-2

ろくごうばしえきあと
六郷橋駅跡

写真提供：NPO法人かわさき歴史ガイド協会

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン 日時	通年

目的	■ 観る　□ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	■ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　□ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	川崎区本町2丁目
問い合わせ	京急ご案内センター
TEL	03-5789-8686または045-441-0999
FAX	
E-mail	
URL	http://www.keikyu.co.jp/information/history/index.html （京急電鉄HP／京急歴史館）
交通	京急大師線港町駅より徒歩10分

マップ

基礎情報

■大正から戦後にかけて23年間利用された六郷橋駅のプラットホームや駅舎の痕跡が、六郷橋駅跡として本町2丁目に現存している。六郷橋の歩道から見学することができ、当時の様子を偲ぶことができる。

由来・エピソード

■京浜急行電鉄の前身である大師電気鉄道が創業し、現在の六郷橋駅跡に六郷橋駅が設置されるまで、幾度か駅舎の場所と名称の変更が行われている。
■大師電気鉄道は明治32年(1899)、京都市電、名古屋電鉄に次いで日本では3番目、東日本では最初の電気鉄道として開業。現在の六郷橋より大師寄りにあった旧川崎駅と大師駅の2km間を約10分で運行していた。明治35年(1902)の線路延長に伴い、旧川崎駅を六郷橋駅を改称し、現在の京急川崎駅の場所に新たに川崎駅を新設した。
■大正14年(1925)に六郷橋が再架橋され、翌大正15年(1926)に線路ルートの変更と六郷橋駅の移設が行われた。その後六郷橋駅は戦時中の営業休止を経て、昭和24年(1949)には廃止されている。現在残っている六郷橋駅のプラットホームは、当時の駅の名残である。

補足・その他

関連シート

(5-1)六郷の渡し･明治天皇の碑
(5-4)京浜急行大師線　港町駅
(5-8)京浜急行大師線　鈴木町駅
(10-1)京急発祥の地碑(川崎大師駅)

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-3

まんねんあと
万年跡

出典:「江戸名所図会」

川崎宿模型

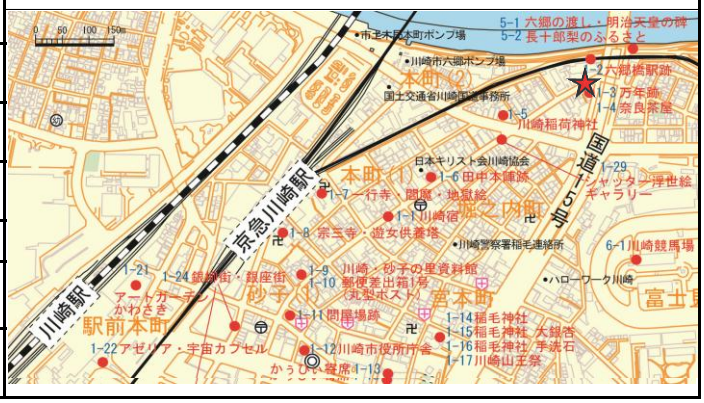
出典:「2001大川崎宿祭り記念誌」

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	通年
		日時	

目的	■ 観る　□ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　□ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	川崎区本町2-11
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会 東海道かわさき宿交流館
TEL	044-221-9117（かわさき歴史ガイド協会） 044-280-7321（東海道かわさき宿交流館）
FAX	044-221-9117（かわさき歴史ガイド協会） 044-280-7314（東海道かわさき宿交流館）
E-mail	
URL	http://www.city.kawasaki.jp/61/61kusei/home/papercraft/index.html （川崎区役所HP／かわさきの宝物・ペーパークラフト）
交通	JR川崎駅よりバス「本町」下車徒歩2分

マップ



基礎情報

■江戸時代に「奈良茶飯」が評判を呼び、宿場一の茶屋となった万年屋の跡地。多摩川を渡って川崎宿に入ってすぐの江戸口（下手土居）にあったという。「江戸名所図会」にも紹介された。現在、旧街道沿いには旅籠･万年（屋）の説明板がある。
■平成13年(2001)5月に開催された宿駅制定四百年記念「大川崎宿祭り」では、宗三寺入口に万年屋が再現され、宮前区在住の料理研究家西本薫子さんが「東海道中膝栗毛」などを基に再現した奈良茶飯が販売された。

由来・エピソード

■明和年間(1764～72)、一膳飯屋だった万年屋は、奈良茶飯の人気で、宿場一の茶屋となり、宿泊もまかなうようになった。江戸時代後期には大名も昼時に立ち寄るほどで、やがて本陣をもしのぐようになった。
■万年屋があった付近には会津屋や新田屋など大きな茶屋がほかにもあった。厄除けで有名な川崎大師へ向かう多くの参拝者たちが、その行き帰りに立ち寄ったためである。また、万年屋近くには「従是弘法大師江之道」の道標が立ち、東海道から大師道への分岐点となっていた。ここから医王寺までの大師道は「万年横丁」とも呼ばれた。
■安政4年(1857)のこと、アメリカ駐日総領事ハリスが江戸へ向かう途中、川崎宿･田中本陣に泊まる予定であったが、本陣のあまりの荒廃ぶりを見て万年屋に宿を変更したという。また、明治10年(1877)療養に向かう皇女･和宮が万年屋で一泊した際、愛らしい赤子とふれあい、すっかり明るく元気を取り戻し川崎宿を後にした。ところが和宮は翌月帰らぬ人となる。帰宅する霊柩が再び万年で休車すると、和宮が箱根到着後さっそく赤子への土産にと買いととのえた箱根細工の玩具が、女官の手によってかの赤子、万年屋の主人半七の孫娘・ハルに手渡されたという。

補足・その他

関連シート

(1-1)川崎宿
(1-4)奈良茶飯
(5-1)六郷の渡し･明治天皇の碑
(10-17)川崎大師平間寺

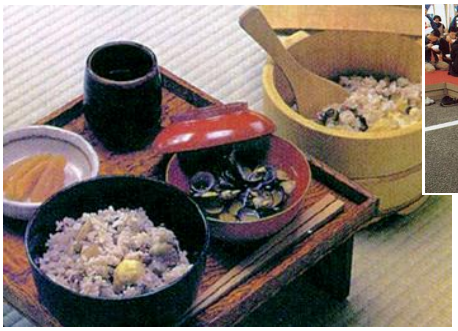
かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-4

ならちゃめし
奈良茶飯

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	通年
		日時	

目的	□ 観る　□ 遊ぶ・体験する ■ 食べる　■ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り ■ 味づくり　□ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　□ 人物



出典:「川崎宿 街道のあしあと」

出典:「2001大川崎宿祭り記念誌」

奈良茶飯風おこわ

所在地	川崎区本町2丁目（万年屋跡） 川崎区本町1-8-9 （川崎屋 東照）
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会 東海道かわさき宿交流館
TEL	044-221-9117（かわさき歴史ガイド協会） 044-280-7321（東海道かわさき宿交流館）
FAX	044-221-9117（かわさき歴史ガイド協会） 044-280-7314（東海道かわさき宿交流館）
E-mail	
URL	http://www.tohteru.com （川崎屋 東照）
交通	JR川崎駅よりバス「本町」下車徒歩2分(万年跡) JR川崎駅・京急線京急川崎駅徒歩8分(川崎屋東照)

マップ

基礎情報

■江戸時代、川崎宿の茶屋である万年屋の名物として人気を博した。バランスのとれた栄養食で300年前の旅人の道中食にはうってつけだったのだろう。六郷川（多摩川）で採れたシジミの味噌汁も付いていたという。
■平成13年(2001)5月に開催された宿駅制定四百年記念「大川崎宿祭り」では、宗三寺入口に万年屋、そして奈良茶飯が再現された。少量の米に炒った大豆や小豆、カチ栗、栗などの保存食に季節の野菜を加え、緑茶の煎じ汁と塩味で炊きこまれたもの。宮前区在住の料理研究家西本薫子さんが「東海道中膝栗毛」などの文献を基に再現した。しじみの味噌汁、奈良漬、お茶とのセットで500円で見物客にふるまわれた。
■東海道かわさき宿交流館近くに立地する和菓子店「川崎屋東照」店内の茶房（このみ）では、味付けを現代風にアレンジした「奈良茶飯風おこわ」をしじみ汁付で食することができる。予約すればお土産用の折り詰めも購入可能。東海道かわさき宿交流館のＰＲを目的とした「コラボ ・ラベル」を表示している。平成27年（2015）には「かわさき名産品2015-2017」にも認定された。

由来・エピソード

■元々奈良茶飯は奈良の東大寺や興福寺などで食されていた僧食であった。寺領から納められる茶を煎じ、初煎と再煎に分け米に再煎の茶で塩味をつけて炊いたご飯を蒸らした後、初煎の濃い方に浸けて食べるのが本来の茶飯であったといわれている。どのようにして川崎に伝来したかは不明だが、『東海道中膝栗毛』に登場する弥次さん喜多さんが立ち寄り、奈良茶飯を食べたことで全国的にその名が知られるようになったという。
■一膳茶屋だった万年屋は奈良茶飯が評判を呼び、やがては宿内一の茶屋になり宿泊もまかなうようになる。江戸時代後期には大名も昼時に立ち寄るほどの人気であった。

補足・その他

■かつて、市役所本庁舎の東隣にあった川崎グランドホテル内の日本料理屋「いなげ」では奈良茶飯を味わうことができた。（川崎グランドホテルは2012年閉館）
■川崎屋東照の「奈良茶飯風おこわ」は平成26年（2014）10月の本店リニューアルに伴って販売を開始。

関連シート

(1-3)万年跡

「かわさき区の宝物」とは？ ☞ http://www.city.kawasaki.jp/kawasaki/category/94-10-2-7-2-1-0-0-0-0.html

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-5

かわさきいなりしゃ
川崎稲荷社

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	通年
		日時	

目的	□ 観る　■ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　□ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　□ 人物

写真提供：NPO法人かわさき歴史ガイド協会

所在地	川崎区本町2-10-9
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会 東海道かわさき宿交流館
TEL	044-221-9117（かわさき歴史ガイド協会） 044-280-7321（東海道かわさき宿交流館）
FAX	044-221-9117（かわさき歴史ガイド協会） 044-280-7314（東海道かわさき宿交流館）
E-mail	
URL	
交通	京急川崎駅より徒歩5分

マップ

基礎情報

■古くから川崎新宿のお稲荷さまとして、土地の人々の信仰を集めてきた神社。戦災で社殿や古文書は焼失したため、創建は不明。
■2月の第2日曜日に町会による稲荷講の祭りが開催され、餅つきが行われ参拝者に配られている。

由来・エピソード

■現在の社殿や鳥居は昭和26年(1951)頃、戦前の建物を模倣して再建された。基礎の土留めには二ヶ領用水に架かっていた石橋の部材が使用され、土留めの外側は、橋の上を多くの人が歩いて磨耗した跡がうかがえる。社殿の下には、いわれのあるケヤキの大木の切り株が眠っているという。昔、ケヤキの大木を切ったところ、ケガ人が後を絶たず、そのお祓いのために切り株の上に社を建てたと伝えられている。そのため、現在の社殿は、以前とは違う位置に建てられたという。
■川崎新宿（現在の京急川崎駅周辺）にあった「馬の水飲み場」から、稲荷社の前を通る道は「稲荷横丁」と呼ばれた。
■享保元年(1716)、紀州藩主の徳川吉宗が八代将軍継承で江戸に向かう際、本陣付近の稲荷社の境内で休息したというエピソードも残っている。

補足・その他

関連シート

(1-1)川崎宿
(1-6)田中本陣跡

「かわさき区の宝物」とは？ ☞ http://www.city.kawasaki.jp/kawasaki/category/94-10-2-7-2-1-0-0-0-0.html

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-6

たなかほんじんあと
田中本陣跡

川崎宿模型（川崎市市民ミュージアム蔵）
写真提供: NPO法人かわさき歴史ガイド協会

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	通年
		日時	

目的	■ 観る　□ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　□ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　■ 人物

所在地	川崎区本町1-4-6付近
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会 東海道かわさき宿交流館
TEL	044-221-9117（かわさき歴史ガイド協会） 044-280-7321（東海道かわさき宿交流館）
FAX	044-221-9117（かわさき歴史ガイド協会） 044-280-7314（東海道かわさき宿交流館）
E-mail	
URL	
交通	京急川崎駅より徒歩4分

マップ

基礎情報

■「本陣」とは、主に大名や公家、旗本、高僧などを対象とした江戸時代の宿泊施設のこと。田中本陣は寛永6年(1629)に川崎宿で初めて設けられた本陣で、門構えや玄関があり延べ231坪（762㎡）の堂々たる建物であった。川崎宿に三軒あった本陣のうち、江戸側にあったことから「下本陣」と呼ばれた。
■元和9年(1623)の川崎宿の設立当初は旅籠も本陣も存在していなかった。寛永5年(1628)、相州玉縄（鎌倉市）の大名松平正綱が江戸へ向かう途中、悪天候のため川崎宿に泊まろうとしたところ、宿泊施設が整っていないためやむなく妙遠寺に泊まったという。正綱が川崎宿の不備を幕府に進言した結果、幕府より100両の助成金が交付され、翌年旅籠12軒と田中家による仮本陣（参勤交代制度が整う寛永11年に正式に本陣となる）が開設された。
■江戸時代中期の宝永4年(1707)、45歳で田中本陣を継いだ田中休愚は、六郷川の渡船権を川崎宿で譲り受けて、財政難にあえぐ宿場を再興させた。今日の川崎の発展の礎を築いた最大の功労者のひとりである。

由来・エピソード

■本陣には、一般の民家には許されなかった門と玄関があった。江戸時代は身分によって泊まる宿が決められており、一般の旅人は本陣に泊まることは認められなかった。参勤交代が始まったことで、多くの大名行列が街道を通り、本陣は身分の高い人が宿泊・休憩する施設として栄えた。
■八代将軍吉宗の江戸入城の途中、田中本陣に三日三晩滞在した際に、1,300頭もの馬と18,000人もの人足が集められたといわれている。川崎宿は大混乱したものの、「白米一升を炊いて持参した者には三升の値で買い上げる」とのお触れが出され、事態は収拾された。なお三角形に結んだにぎり飯を三個並べ「葵の御紋」に見立てたというが、これがその後全国に広がったという逸話が伝えられている。三角おむすびの元祖は川崎宿であり、妙案ともいえる触書と三角おむすびの考案者は他でもない田中休愚であった。
■川崎宿の歴史に大きな位置を占めてきた田中本陣であったが、長年の参勤交代による大名家の財政悪化や文久2年(1862)の参勤交代制緩和による利用度の低下、さらには大飢饉や天災等によって本陣は次第に衰退していった。アメリカの駐日総領事ハリスが、田中本陣のみすぼらしい様を見て、宿を万年屋に変更した話は有名である。明治元年(1868)、明治天皇の東幸の際、田中本陣で昼食をとって休息し、高齢者や善行者に褒美を遣わせたというエピソードを最後に、輝かしい歴史に幕がとじられた。

補足・その他

■川崎宿には田中の本陣以外に、京口より「上の本陣」として佐藤本陣（惣佐衛門本陣）、「中の本陣」として惣兵衛本陣の計三軒の本陣があった。三軒では互いに渡世は成り立たなかったことから、惣兵衛本陣が、江戸後期には既に廃業していたものと考えられている。

関連シート

(1-1)川崎宿
(1-11)問屋場跡
(1-25)佐藤本陣跡・佐藤惣之助の碑
(32-2)田中休愚

「かわさき区の宝物」とは？ ☞ http://www.city.kawasaki.jp/kawasaki/category/94-10-2-7-2-1-0-0-0-0.html

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-7

いちぎょうじ・えんま・じごくごくらくえ

一行寺・閻魔・地獄極楽絵

写真提供：NPO法人かわさき歴史ガイド協会

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	冬・夏
		日時	

目的	■ 観る　□ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　□ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	川崎区本町1-1-5
問い合わせ	一行寺
TEL	044-222-3635
FAX	044-233-8241
E-mail	kgd01516@nifty.com
URL	http://www.ichigyo-ji.com/ （浄土宗一行寺）
交通	京急川崎駅より徒歩2分

マップ

基礎情報

■浄土宗で正式名称は専修山念仏院一行寺という。本尊は阿弥陀如来像。川崎宿の開設にともない寛永8年(1631)に念仏弘通の道場として顕譽円超上人によって創建された。当時は田中本陣が火急の際の宿泊者の避難場所にあてられていたという。
■別名「閻魔寺」とも呼ばれ、客殿に安置された閻魔座像と地獄極楽図が一般にご開帳される年2日の薮入りの日には大勢の参拝者でにぎわう。
■陰暦の1月と7月の16日を「薮入り」といい、閻魔王の斎日で地獄の釜が開く日とされている。この日ばかりは鬼も罪人を責めないといわれ閻魔詣でをする習慣があった。普段は非公開だが1月の第2日曜（または1月16日が日曜の時）と7月16日だけ見ることができる。

由来・エピソード

■戦前は薮入りの頃になると縁日が立って賑わい、子どもたちはお閻魔様をお参りし地獄絵図を見て怖がったものであったという。第二次大戦の戦火によって本尊や閻魔像、本堂など大半が失われ長いこと人々の語り草となっていたが、地元に「お閻魔さま復興委員会」が結成され昭和58年(1983)、本堂や客殿の新築にあわせて新しい閻魔座像がつくられた。
■地獄極楽図は千葉県安房延命寺に伝わる一六幅で、地獄に堕ちた極重悪業をなした者の現世での善行・悪行が全て閻魔帳には記録されていることから閻魔様をごまかすことが出来ないことをよく表している絵図である。
■客殿には戦後浄土宗務所の好意によって下付された江戸初期の阿弥陀如来座像が安置され、本堂には日本彫刻界の第一人者円鍔勝二氏（勝三）による善導大師像、小森邦夫氏による法然上人像などが置かれる。また境内には川崎最初の寺子屋「玉淵堂」を開いた能書家浅井忠良の墓や富士講の大先達である宗教家西川満翁の墓がある。境内の入り口付近には戦火を生き残った樹齢400年を数える大銀杏が植わり、その下には江戸時代に名主であった稲波氏が旅籠紀伊国屋の隠居・中村翁の庭園を讃えて詠んだ歌を刻んだ「仮山碑」がある。旧川崎競馬場建設のため明治10年に廃園となり、昭和35年に一行寺に移設されたものである。

補足・その他

■7月16日の閻魔像のご開帳日には寄席が開催される。
■1月のご開帳は新宿青年会、他有志の皆さんにより境内に縁日のようにお店が催されにぎわう。

関連シート

(1-1)川崎宿
(1-6)田中本陣跡

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-8

そうさんじ・ゆうじょくようとう
宗三寺・遊女供養塔

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	通年
		日時	

目的	■ 観る　□ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　□ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	川崎区砂子1-4-3
問い合わせ	宗三寺
TEL	044-222-5051
FAX	044-244-4188
E-mail	
URL	
交通	京急川崎駅より徒歩5分

マップ

基礎情報

■曹洞宗の寺。本尊は釈迦如来。鎌倉時代の僧、玄統が開山。川崎宿で最も古い寺である。境内にはかつて宿場の賑わいを支えた飯盛女（遊女）の供養塔があることでも有名。

由来・エピソード

■宗三寺は戦国期あるいは室町時代に開創したと考えられている。中世の河崎庄で信仰を集めた勝福寺の後身とみられ、その後、小田原北条氏家臣の間宮豊前守信盛が中興し、その法名である「瑞栄院雲谷宗三居士」から宗三寺と名付けられた。
■江戸時代、旅籠には「平旅籠」と「飯盛旅籠」があった。飯盛旅籠は、旅人に給仕をしたり床を共にしたりする飯盛女（めしもりおんな）を置く旅籠のこと。飯盛女とは年季奉公で近郷から売られてきた女性たちで、一般旅行者の増えた江戸後期には旅人を留めて宿場の財政を支える大きな役割を果たしていたが、多くは体を壊し、墓にも入れずに打ち捨てられた。供養塔はそんな女性たちの冥福を祈って、大正初期に川崎貸座敷組合によって建てられたものである。台座には、吉田楼、三浦屋、高塚楼など当時の遊郭楼の名前が刻まれ、また江戸時代の川崎宿の人口が男1080人、女1353人とも記されている。昭和63年(1988)に川崎今昔会によって建てられた供養塔も左側に寄り添っている。
■また、「烏八臼（うはっきゅう）」といわれる、いまだ解明されていない謎の文字が頭部に刻まれた墓石がある。烏八臼は室町時代から江戸時代後期につくられた曹洞宗や浄土宗関係の墓標でよく見られる。鳥を意味するものであるとか、梵字合字の崩れであるなどの諸説がある。

補足・その他

関連シート

(1-1)川崎宿

「かわさき区の宝物」とは？ ☞ http://www.city.kawasaki.jp/kawasaki/category/94-10-2-7-2-1-0-0-0-0.html

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-10

ゆうびんさしだしばこ1ごう(まるがたぽすと)

郵便差出箱1号(丸型ポスト)

エリア	中央地区	シーズン	通年
	川崎駅前北	日時	

目的	■ 観る　□ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　□ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　□ 人物

川崎小学校前の2号ポスト

#REF!

所在地	川崎区砂子1-4-10（砂子の里資料館前） 川崎区日進町20-1（川崎小学校正門前）
問い合わせ	
TEL	
FAX	
E-mail	
URL	
交通	京急川崎駅より徒歩5分（砂子の里資料館前） JR川崎駅より徒歩10分（川崎小学校正門前）

マップ

基礎情報

■平成17年(2005)3月10日、昔懐かしい丸型郵便ポストが復活した。川崎市内では十数年前から見られなくなっていたが、市立向小学校に保管されていたものを譲り受け、川崎中央郵便局の全面的な協力のもと、砂子の里資料館前に実際の郵便ポストとして設置した。

由来・エピソード

■丸型ポストは、昭和40年代までは全国的に主流であったが、今では生産中止となり入手が非常に難しくなっている。川崎市立向小学校の校庭に寄贈された丸型ポストがあることを知った「東海道川崎宿2023」メンバーが古い街並みイメージの復元に少しでも寄与しようと、同校の大畑校長にお願いして譲り受けた。郵便ポストとしての運用に耐えられるように、再塗装などを行って復活させた。
■丸型ポストは、現在でも全国で約5千本が使用されているが、再利用した例はない。当初は川崎中央郵便局も戸惑いがあったようだが、最終的には設置場所の検討を共同で行い、実際の郵便ポストとしての運用を決定するなど、全面的な協力をいただいた。
■開設式では、川崎中央郵便局長、向小学校校長、宮前小学校校長、砂子の里資料館館長、川崎区長などが参加して除幕を行い、向小学校と設置場所の学区である宮前小学校の代表児童と斎藤館長が一緒に初投函を行った。

補足・その他

■砂子の里資料館前に続き、平成18年(2006)3月には川崎小学校正門前にも「丸型ポスト」が設置された。これは、秦野市にあったものを譲り受けたものである。

関連シート

(1-9)川崎・砂子の里資料館

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-11

といやばあと
問屋場跡

川崎宿模型(川崎市市民ミュージアム蔵)、手前が高札場

現在の問屋場跡(上)と川崎宿総合案内板

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	通年
		日時	

目的	□ 観る　■ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　□ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	川崎区砂子1-7-1付近
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会 東海道かわさき宿交流館
TEL	044-221-9117（かわさき歴史ガイド協会） 044-280-7321（東海道かわさき宿交流館）
FAX	044-221-9117（かわさき歴史ガイド協会） 044-280-7314（東海道かわさき宿交流館）
E-mail	
URL	
交通	京急川崎駅より徒歩5分

マップ

基礎情報

■江戸時代、宿場の中心となる最も重要な施設だった問屋場の跡地。今でいう役所にあたり、公用で旅をする人達の便をはかるため人足と伝馬を常備していた。また、幕府の手紙や荷物を次の宿場へ送る飛脚業務や、大名行列の出迎えや宿場業務の監督なども行われ、昼夜交代制で連日多忙を極めたという。天保14年(1843)の『東海道宿村大概帳』によれば、問屋3人、問屋代4人、年寄5人、帳付6人、人馬指11人の総計29人の宿役人が勤めていたとの記録がある。

由来・エピソード

■宝永4年(1707)に田中本陣職を継いだ田中休愚は、六郷渡船権の請負という宿場の財政再建策を提案。これを高く評価した関東郡代･伊奈半左衛門忠順が、本陣職に加えて休愚に兼任させたのが、名主、そして問屋役（問屋場の責任者）であった。八代将軍吉宗の江戸入城の際、1,300頭の馬と18,000人の人足が集められたといわれ、川崎宿は大混乱をきたしたが、無事に事態を収拾できたのは休愚の手腕によるものであった。
■街道の向かい側には、幕府や領主が決めた掟などを木の板に記して立てられる高札場があった。高札場の近くには｢惣兵衛本陣｣が建っていた。佐藤本陣（上の本陣）と田中本陣（下の本陣）の間に位置していたため、通称｢中の本陣｣と呼ばれた。江戸後期の享和年間(1801～04)には既に廃業していたものと考えられている。
■川崎宿の中でも最も由緒のある場所として、現在は旧東海道・川崎宿の案内板が設置されている。

補足・その他

関連シート

(1-1)川崎宿
(1-6)田中本陣跡
(1-25)佐藤本陣跡･佐藤惣之助の碑
(32-2)田中休愚

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-12

かわさきしやくしょほんちょうしゃ
川崎市役所本庁舎

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	通年
		日時	

目的	■ 観る　□ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　□ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	川崎区宮本町1
問い合わせ	川崎市総務企画局総務部庁舎管理課 （建替えに関する問い合わせ先は、「補足・その他」欄に記載）
TEL	044-200-2081
FAX	044-200-3749
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅より徒歩8分

マップ

基礎情報

■川崎市役所本庁舎は、鉄筋コンクリート造りで、昭和13年(1938)から平成28年（2016）2月まで、戦前・戦中・戦後を通じて川崎市の本庁舎として使用されていた。
■大規模地震で倒壊する危険性があることなどから建て替えることとなり、平成28年（2016）に解体工事に着手。本庁舎の記憶を継承するため、いったん解体した後、正面の外観の一部を新しい庁舎の低層棟として新築復元することとなっている。

由来・エピソード

■高さ約36m、8階建ての高さに相当する時計塔は、市のシンボル的存在として広く親しまれていた。
■時計塔は防空警備の用に供するため造られ、当初サイレンが設置されていた。戦時中は迷彩色をまとい空襲監視塔として利用されたが、電気が切れた時の警報用として、サイレンに代えて教安寺（小川町）の鐘が置かれていたこともある。教安寺の梵鐘は文政12年(1829)鋳造の大変貴重なもので、戦時中多くの寺の梵鐘が武器の材料として集められたが、市役所に保管されたことで難を逃れ、現在市内に残る江戸時代につくられた梵鐘の3つのうちの1つとして今も教安寺に残っている。戦後は、毎日午前8時から午後6時までの毎正時に、ウエストミンスターチャイムの電子音が奏でられるようになった。
■テラスのある車寄せや正面玄関、正面階段などが印象的な本庁舎は、「神奈川県の近代化遺産」報告書（平成24年（2012））でも、「工都川崎にふさわしいモダンな市庁舎であり、時代の最先端の表現を盛り込んだ公共建築といえる。」と評されている。
■正面玄関にあった柱時計は竣工記念に市民から寄贈されたもので、市庁舎とともに70年以上を歩み続ける産業遺産といえる。もともとはゼンマイ仕掛けの振り子時計だったが20年以上前に電気時計に改造され現在も現役で使用可能な状態にある。

補足・その他

■最も速く事業が進捗した場合には、平成３４年度（2022）に新本庁舎、平成35年度（2023）に第２庁舎跡地広場が完成する予定。
　新庁舎の基本目標や施設配置計画など、新たな本庁舎の設計に向けた基本的な考え方を取りまとめた「川崎市本庁舎等建替基本計画」は、市のホームページに掲載されている。
■建替えに関する問い合わせ先
　川崎市総務企画局本庁舎等建替準備室
　TEL　044-200-0281
　FAX　044-200-2110

関連シート

(2-6)教安寺

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-13

いなげじんじゃ
稲毛神社

写真提供：稲毛神社

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	通年・夏
		日時	

目的	■ 観る　□ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　□ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	川崎区宮本町7-7
問い合わせ	稲毛神社社務所
TEL	044-222-4554
FAX	044-245-2003
E-mail	info@takemikatsuchi.net
URL	http://takemikatsuchi.net/ （稲毛神社）
交通	JR川崎駅・京急川崎駅より徒歩10分

マップ

基礎情報

■武の神とされる武甕槌神（たけみかつちのかみ）を祀った古社。浅間神社や佐佐木神社など15の境内社をもつ。川崎区で最古の神社といわれている。
■境内には川崎市指定文化財（重要歴史記念物）である田中丘隅ゆかりの手洗石や、現存する宿場時代の木造建造物「子神社（ねのじんじゃ）」、昭和60年(1985)に発掘された「小土呂橋遺構」、樹齢1千年と推定される「大銀杏」など川崎の豊かな歴史を物語る史跡や、「佐藤惣之助の詩碑」「松尾芭蕉の句碑」「正岡子規没後百年記念句碑」といった川崎にゆかりの深い文人たちの記念碑が多くまつられている。
■毎年8月1日、2日から直後の日曜日にかけて川崎山王祭が盛大に催される。

由来・エピソード

■稲毛神社は、平安時代末期に川崎の地を領有していた河崎冠者基家が山王権現を勧請して以後、「河崎山王社」または「堀之内山王権現」などと呼ばれ、勝利と和合の神様として長く信仰を集めてきた。江戸時代には川崎宿の鎮守として地元住民の崇敬を集め、当時は毎年6月15日に行われていた例大祭「河崎山王まつり」は、その盛況なさまから「東の祇園」と称され東海道の名物のひとつにもなっていたという。
■しかし、大政奉還後の慶応4年(1868)4月、東征大総督・有栖川宮熾仁親王による「新政府の神仏分離の方針にふさわしくない」との意見から、鎮座地の武蔵国稲毛庄の名をとって「川崎大神稲毛神社」に名称を変え、明治中期には「稲毛神社」の名が定着した。

補足・その他

関連シート

(1-14)稲毛神社　大銀杏
(1-15)稲毛神社　手洗石
(1-16)川崎山王祭
(2-7)小土呂橋の親柱(擬宝珠)
(6-10)中島八幡神社祭囃子
(8-3)新田神社

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-14

いなげじんじゃ　おおいちょう
稲毛神社　大銀杏

写真提供：NPO法人かわさき歴史ガイド協会

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	初夏～秋
		日時	

目的	■ 観る　□ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　□ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	川崎区宮本町7-7
問い合わせ	稲毛神社社務所
TEL	044-222-4554
FAX	044-245-2003
E-mail	info@takemikatsuchi.net
URL	http://takemikatsuchi.net/ （稲毛神社）
交通	JR川崎駅・京急川崎駅より徒歩10分

マップ

基礎情報

■稲毛神社境内にある樹齢一千年といわれる御神木。戦火で受けた損傷から力強く復活を果たし、現在もなお人々からの篤い信仰を集めている。
■昭和61年(1986)、稲毛神社境内整備事業の一環として、ブロンズ製の十二支信仰にちなんだ神柱が、大銀杏の周囲に配置され、稲毛神社のみどころのひとつとなっている。根本の祠には竜神様が祀られている。

由来・エピソード

■江戸時代、東海道を旅する者から「山王様の大銀杏」として知られていた。『禹老忠政遊覧記』には、「この大銀杏の周囲を回りながら願い事をすると、ことごとく叶う。特に縁結び、子授け、子育て、学問稽古事の向上に霊験があり、参拝者がたえない。」と記されるなど、旅人や住民から信仰を集めていたことがわかる。
■昭和20年(1945)4月の戦火で5日間くすぶり続けた結果、幹が空洞化するという大損傷を負った。そのため、戦後、神奈川県指定の天然記念物から解除された。倒壊を防ぐためやむなく上部が切り落とされたが、やがて残った幹の樹皮から若枝が伸長しはじめ、年月を経て見事な復活を果たしたのである。御神木の証しとなるその強い生命力に、人々はより畏敬の念を強くしたといわれている。

補足・その他

関連シート

(1-14)稲毛神社

「かわさき区の宝物」とは？ ☞ http://www.city.kawasaki.jp/kawasaki/category/94-10-2-7-2-1-0-0-0-0.html

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-15

いなげじんじゃ　ちょうずいし
稲毛神社　手洗石

写真提供：NPO法人かわさき歴史ガイド協会

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン 日時	通年

目的	■ 観る　□ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　□ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　■ 人物

所在地	川崎区宮本町7-7
問い合わせ	稲毛神社社務所
TEL	044-222-4554
FAX	044-245-2003
E-mail	info@takemikatsuchi.net
URL	http://takemikatsuchi.net/ （稲毛神社）
交通	JR川崎駅・京急川崎駅より徒歩10分

マップ

基礎情報

■田中休愚は江戸時代中期、財政難にあえぐ川崎宿を再興し、二ヶ領用水や多摩川の治水工事を完遂するなど、今日の川崎の発展の礎を築いた最大の功労者のひとり。一介の町人から武士に取り立てられ、三万石支配の代官職にまで出世を果たした。稲毛神社境内に置かれる手洗石は、享保14年(1729)に休愚が没した際、その業績を讃え、冥福を祈念して、一族と手代衆によって奉納されたと伝えられている。手洗石は現在、市の重要歴史記念物に指定されている。

由来・エピソード

■45歳で川崎宿本陣職･田中家を相続した休愚は、六郷川の渡船権を獲得し、財政難の川崎宿の再建を果たした。その後河川土木の勉強を始め、8代将軍吉宗に認められると、「川除御普請御用」(河川管理の責任者)に登用され、小泉次大夫が完成させた後すでに110年余りが経過していた二ヶ領用水の大改修工事、荒川や多摩川下流の大丸用水など、多くの治水事業で成功をおさめた。幕府はこれを高く評価し、享保14年(1728)休愚を多摩･埼玉2郡3万石支配勘定格代官に抜擢した。引き続きおこなった多摩川最下流、旭町から大師河原までの堤防改修を最後の事業として、同年12月、休愚は江戸で没した。享年68歳であった。

■手洗石の銘文には、寄進者として休愚の実子と手代衆であった「田中仙五郎、田中団助、森田重郎衛門、富永軍治、門田半四郎」の5名の名が記されている。彼らは休愚が十人扶持を与えられた際に登用された優れた土木治水技師であり、休愚を補佐する重要なブレーンや現場監督として治水工事の実務を担った者たちである。

補足・その他

関連シート

(1-1)川崎宿
(1-6)田中本陣跡
(1-14)稲毛神社
(32-2)田中休愚

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-16

かわさきさんのうさい
川崎山王祭

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	夏
		日時	8月1日から例祭(8月2日)以降最初の日曜日まで

目的	■ 観る　□ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　■ イベント・祭り □ 味づくり　■ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　□ 人物

写真提供：稲毛神社

宮座式

「祭りの日」詩碑

所在地	川崎区宮本町7-7
問い合わせ	稲毛神社社務所
TEL	044-222-4554
FAX	044-245-2003
E-mail	info@takemikatsuchi.net
URL	http://takemikatsuchi.net/ （稲毛神社）
交通	JR川崎駅・京急川崎駅より徒歩10分

マップ

基礎情報

■毎年8月1日、2日から直後の日曜日にかけ盛大に行われる稲毛神社のお祭りで、中心となるのは2日に行われる例祭(社殿内の儀式)。同日には関東では珍しい『古式宮座式』（神奈川県民俗文化財）という儀式が行われる。
■最終日には『孔雀神輿』と『玉神神輿』の男女二基の神輿が23町内を練り歩く。構成は、神の結婚、懐妊、御子神の誕生という物語。

由来・エピソード

■稲毛神社は明治以前までは「山王社」と呼ばれていたため、例祭である山王祭にその名が残されている。江戸時代、山王祭は6月15日に行われており、その盛況ぶりから「東の祇園」と称され、街道名物のひとつとされていた。
■「古式宮座式」は、地方の神社に専任の神主がいない場合、神事行事を氏子の代表者が行うもので、中世には多く見られた制度である。江戸時代になると、各神社に神職が置かれるようになり、宮座式は消えた。その中で稲毛神社の宮座式は、関東地方で現在でも残っている数少ない儀式である。一連の儀式は秘式となっており、一般には公開されていない。
■川崎の生んだ詩人・作詞家の佐藤惣之助は山王祭りをこよなく愛したといわれ、いくつかの歌や詩にも詠み込まれている。

　　祭りの日は佳き哉
　　つねに恋しき幼き人の
　　あえかに粧ひて
　　茜する都の方より来る時なり・・・

『祭りの日』は幼い頃、山王祭りの日に横浜から遊びにくる親類の女の児への想いを綴った詩である。その幼い客こそ、後の花枝夫人である。惣之助夫妻生誕100年を記念し、『祭りの日』詩碑が昭和62年(1987)に川崎今昔会によって境内に建立された。

補足・その他

関連シート

(1-13)稲毛神社
(1-25)佐藤本陣跡・佐藤惣之助の碑
(32-4)佐藤惣之助

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-17

きゅうろくごうばしおやばしら(いなげこうえん)

旧六郷橋親柱(稲毛公園)

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	通年
		日時	

目的	■ 観る　□ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	■ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　□ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　□ 人物

昭和15年当時の旧六郷橋と親柱
写真提供：倉形泰造氏

所在地	川崎区宮本町7 稲毛公園内
問い合わせ	川崎市建設緑政局道路河川整備部道路施設課
TEL	044-200-2801
FAX	044-200-7703
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅より徒歩10分

マップ

基礎情報

■大正14年(1925)から昭和59年(1984)まで多摩川に架かっていた旧六郷橋の親柱。当時は一般国道15号のランドマークとなっていた。
■新橋架設時に撤去された親柱4基のうちの1基が川崎市土木事務所(現･川崎区役所道路公園センター)に保管されていたが、川崎の貴重な近代化遺産のひとつとして、平成14年(2002)11月、川崎商工会議所・国・市・地域住民の協力のもと、稲毛公園内への移設、公開が決定した。

由来・エピソード

■六郷川(多摩川下流部の旧名)は、流域の人々に恵みの水を与える一方で、しばしば洪水の厄災をもたらしてきた。六郷橋の歴史は洪水との格闘の歴史であった。この地に初めて橋を架けたのは徳川家康。慶長5年(1600)に西国との往来のため「六郷大橋」を建造した。洪水の度に修復や架け直しを繰り返したが、やがて貞享5年(1688)7月の大洪水による橋の流失を機に幕府は架橋を断念し、明治期まで渡し船による渡河が続くことになった。
■明治7年(1874)、対岸の八幡塚村の名主・鈴木左内が私財を投じて木橋「左内橋」を架けるが、4年後に流出。明治16年(1883)に八幡塚村と川崎の有志が共同出資して架けた「六郷橋」も明治43年(1910)の大洪水で流出した。大正に入り、近代化に即応した陸上輸送の強化を目的に、東京府と神奈川県によって建造されたのが「旧六郷橋」である。大正14年(1925)、長さ444mの近代的なコンクリート橋が完成した。
■橋体の主体がすべて鉄構造のタイドアーチ型の橋梁。新橋に架け替えられるまでの約60年間、「陸路の帝都の門」として、また第一京浜（一般国道15号）のランドマークとして活躍し、大正期から昭和期にかけての工場や水門、運河など様々な基盤整備を推進した川崎の近代化の象徴となった。
■昭和59年(1984)老朽化によって現在の「新六郷橋」へと架け替えられ、4基の親柱は撤去された。稲毛公園に移設された親柱の内、１基は川崎市土木事務所に保管されていたもの、もう１基は国交省川崎国道事務所から移管されたものである。

補足・その他

■対岸の大田区側の新六郷橋のたもとには、旧六郷橋の橋門と親柱が保存されている。また、木造時代の六郷橋の橋柱も六郷神社（大田区東六郷3-10-18）に保存されている。

関連シート

(5-1)六郷の渡し･明治天皇の碑
(14-1)多摩川(河口干潟･桜並木)
(4-6)標柱「国府県道路管理境界標」

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-18

かわさききっかたいかい
川崎菊花大会

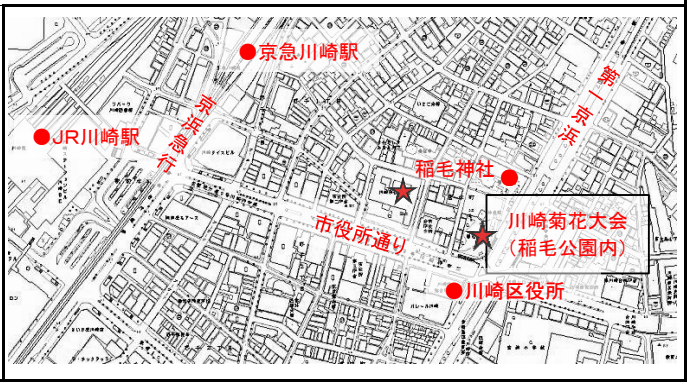
写真提供：関東川崎菊花会

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	秋
		日時	10月下旬～11月中旬

目的	□ 観る　■ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　■ イベント・祭り □ 味づくり　■ にぎわい ■ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり □ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	川崎区宮前町7（稲毛公園）
問い合わせ	関東川崎菊花会　理事長　元植泰男
TEL	045-901-8166
FAX	045-901-8166
E-mail	y-motoue @dn.catv.ne.jp
URL	
交通	JR川崎駅･京急川崎駅より徒歩10分 またはバス8分「宮前」よりすぐ

マップ



※川崎市の承認を得て同市発行の都市計画基本図を複製したものです。
承認番号（川崎市指令ま計第１５９号）

基礎情報

■昭和27年(1957)より行われている、川崎市最大の由緒ある菊花展。年1回、毎年10月下旬頃からの約1ヶ月間、「関東川崎菊花会」会員が丹誠を込めて育て上げた作品の品評会が盛大に催され、晩秋の稲毛公園に彩りを添えている。

由来・エピソード

■関東川崎菊花会を主催するのは、川崎市在住の方を中心に横浜市、東京都などから会員約40名によって組織される「関東川崎菊花会」。出品物は盆養花（三本立・組鉢・七本立）、盆栽、だるま作り、福助作り、ドーム菊、スプレー菊、切花などに大きく分類され、それぞれに厳しい規格や審査が設けられているが、総勢約400点にもおよぶ出品数を誇っている。表彰式は12月下旬に行われ「内閣総理大臣賞」「文部科学大臣賞」「農林水産大臣賞」「環境大臣賞」「厚生労働大臣賞」「県知事賞」「市長賞」をはじめとする多くの特別賞が授与される。
■日本固有の文化である菊作り。菊づくりは、花づくりの中でも特に手が掛かり、思い通りの大輪を咲かせるために日々の心を込めた丁寧な世話が必須であるという。菊は1年花であり、今年秀作ができても来年同様な花が咲いてくれるとは限らない。その分やりがいはとても大きく、毎年秋には愛好家たちによる菊花展が全国いたるところで開催されている。

補足・その他

関連シート

(1-17)旧六郷橋親柱(稲毛公園)

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-19

かわさきはろーぶりっじ

川崎ハローブリッジ

写真提供：川崎区役所道路公園センター

エリア	中央地区 川崎駅前北～宮前・貝塚	シーズン	通年
		日時	

目的	■ 観る　□ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　■ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり □ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	国道15号と市役所通りの交差点
問い合わせ	川崎市建設緑政局道路河川整備部道路施設課 川崎区役所道路公園センター
TEL	044-200-2802(川崎市) 044-244-3206(川崎区役所道路公園センター)
FAX	044-200-7703(川崎市) 044-246-4909(川崎区役所道路公園センター)
E-mail	53dousi@city.kawasaki.jp
URL	
交通	JR川崎駅･京急川崎駅より徒歩10分

マップ

基礎情報

■平成5年(1993)3月、全国初のエレベーター付き立体横断歩道橋「川崎ハローブリッジ」が国道15号と市役所通り･富士見通りの交差点に完成した。川崎市と建設省（現・国土交通省横浜国道事務所）の共同事業によって建設され、橋の名称は公募によって地元の小学生のアイディアが採用された。
■開放的で広々とした橋の上からは360°の川崎の街の景観を眺めることができる。TVドラマのロケなどにも利用されている。

由来・エピソード

■橋の幅員は旧宮前歩道橋の2.25mから7m（最大14m）まで広がり、スムーズな人の流れと余裕のある歩行者空間が実現した。中央部の“出会いの広場”にはモニュメント｢飛翔｣がそびえ、南北にも1基ずつサブモニュメントが設置されている。また舗装床面には川崎市の木であるツバキがあしらわれている。
■ハローブリッジの4隅には11人乗りエレベーターと8方向へのスロープ付き階段が設置され、バリアフリー対応の構造となっている。エレベーターは箱の前後に乗降扉がついているため、車椅子利用者がエレベーター内での回転や後退の必要がなくなり、乗降者検出装置や監視カメラ、高音声センサーなども備わっている。川崎区役所（パレールビル）2Fに直結する連絡橋も設けられ、歩道橋の随所に｢安心･快適｣を第一に考えた工夫が凝らされている。

補足・その他

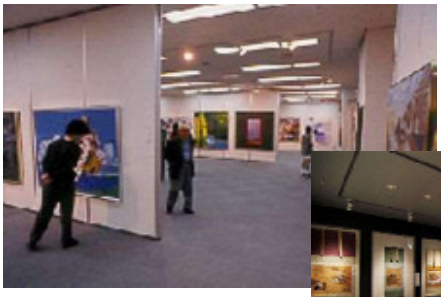
関連シート

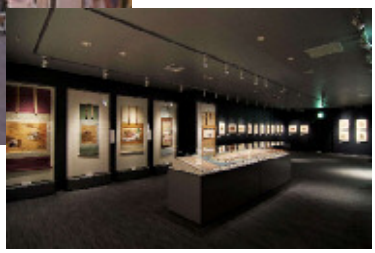
(6-2)富士見通り

宝物No.
1-20

あーとがーでんかわさき・かわさきうきよえぎゃらりー

アートガーデンかわさき・川崎浮世絵ギャラリー





エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	通年
		日時	

目的	□ 観る　■ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　■ にぎわい ■ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり □ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	川崎区駅前本町12-1 川崎駅前タワーリバーク3F
問い合わせ	（公財）川崎市文化財団
TEL	044-222-8821
FAX	044-222-8817
E-mail	
URL	https://www.kbz.or.jp/facility/artgarden/ （（公財）川崎市文化財団／アートガーデンかわさき）
交通	JR川崎駅より徒歩2分

マップ

基礎情報

■利用者自らの企画により、絵画や彫刻、造形、工芸、写真をはじめとする、ジャンルを越えたアート発表の場として親しまれているスポット。
■2019年12月3日にアートガーデンかわさき特別展示室内に「川崎浮世絵ギャラリー」がオープン。「川崎・砂子の里資料館」が所蔵する約4000点に及ぶ浮世絵コレクションを展示。会期ごとに50～70点程を入れ替えながら展示予定。

由来・エピソード

■展示室は全部で第一（約215㎡）、第二（約135㎡）、第三（約162㎡）の計3室ある。第3展示室にはガラスコーナーがある。開場時間は原則として火～日曜日の午前10時～午後7時。
■利用申込みは、希望日の属する月の6カ月前の1日～5日の間に行う（申込み多数の場合は抽選となる）。利用者は個人・団体、市内・市外を問わず。

補足・その他

関連シート

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-21

あぜりあ・うちゅうかぷせる
アゼリア・宇宙カプセル

写真提供：川崎アゼリア株式会社

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	通年
		日時	

目的	■ 観る　□ 遊ぶ・体験する □ 食べる　■ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　■ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり □ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	川崎区駅前本町26-2
問い合わせ	アゼリア
TEL	044-211-3871
FAX	
E-mail	
URL	http://www.azalea.co.jp/
交通	JR川崎駅より徒歩2分

マップ

基礎情報

■日本最大級の売り場面積を誇るJR川崎駅東口の地下ショッピングモール。1日平均25万人の人々が頻繁に往来する一大地下空間。レストラン、食料品、衣料、雑貨など163店舗で構成されている。
■中央正面入口の大型オルゴール「宇宙カプセル」では、1日12回登場する鼓笛隊人形の軽妙な演奏に多くの人が聴き入っている。

由来・エピソード

■アゼリア・川崎地下街は川崎市の都市開発事業の一環として昭和61年(1986)10月1日にオープン。「アゼリア(AZALEA)」とは、川崎市の花でもある「西洋つつじ」の意味で、全国5,802通の応募の中から決定された。
■高い吹き抜けから太陽光が差し込む「サンライト広場」など、川崎を象徴するショッピング・エンターテイメント・ゾーンとして親しまれている。
■1日50万人が行き交うJR川崎駅東西自由通路には、400インチの迫力ある大画面、フルカラーLED「アゼリアビジョン」が設置され、多様な情報を発信している。

補足・その他

■問い合わせ先
アゼリア（川崎アゼリア株式会社）
　TEL：044-211-3871（地下街・代表電話）

関連シート

(1-23)銀柳街・銀座街

「かわさき区の宝物」とは？ ☞ http://www.city.kawasaki.jp/kawasaki/category/94-10-2-7-2-1-0-0-0-0.html

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-22

かわさきあわおどり
かわさき阿波おどり

写真提供：かわさき阿波おどり実行委員会

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	秋
		日時	10月

目的	□ 観る　■ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　■ イベント・祭り □ 味づくり　■ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり □ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	JR川崎駅東口一帯
問い合わせ	かわさき阿波おどり実行委員会
TEL	044-222-9111
FAX	044-222-9111
E-mail	awaorori@kawasaki-ginza.com
URL	http://www.kawasaki-awaodori.com
交通	JR川崎駅東口・京急川崎駅より徒歩1分

マップ

基礎情報

■毎年10月上旬土曜日に、JR川崎駅東口一帯にかけて盛大に開催される川崎の秋の風物詩。駅前周辺の商店街を子供連・地元連などが「よしのこ」のリズムにのって、練り歩く。
■参加団体は地元の商店会、隣接する横浜市や大田区の有志団体など。宮前小学校や第一ひかり幼稚園の児童･園児だけの連が結成されているのは川崎だけといわれている。
■昭和61年(1986)に開始したのち、徐々に参加団体が増加。現在では10以上の連が毎年華麗な踊りを披露し、通りを賑わせている。地元の市民が「誰でも参加できるように」と結成し、初回より参加してる「ぎんぎん連」、川崎区役所などの職員で組織し、かわさき阿波踊りのベテランからビギナーまで、多種済々の面々を揃えた「川崎きさわか連」などの地元川崎発の連や、大田区役所の職員有志でつくる「大田区役所くすのき連」等、毎年様々な連が参加している。

由来・エピソード

■阿波おどりの発祥は今から400年以上前の四国の徳島にあるといわれ、足運びの美しい華やかな「女踊り」と力強く豪快な「男踊り」、そして自然と身体が動き出す軽快な鳴り物の音色が観客の心を躍らせ魅了する伝統行事。現在の形になったのは江戸時代後期であるといわれている。川崎の阿波おどりのきっかけは昭和45年頃の「商業まつり」。何かをやりたいと、東京･阿佐ヶ谷の阿波おどりを見学に行き、教えを請い、マイクロバス仕立てで一から習いに通ったという。阿佐ヶ谷でも自分達より街の規模の大きい川崎に教えてしまってよいのか、観客が移ったらどうするんだ、と相当議論したそうである。そして様々な事情により中断するも、昭和61年(1986)から「かわさきテクTecまつり」への協賛イベントとして、かわさき阿波おどりが正式にスタートしたのである。
■平成6年(1994)の第9回市政70周年記念大会からは「かわさき阿波おどり実行委員会」が組織された。本場徳島など毎年全国の強豪連を招待したり、近隣都県からのゲスト連を呼ぶようになって、いっそうの盛り上がりと地元への定着が実感できるようになったという。

補足・その他

■歴代連一覧（50音順）
【参加連】あぜりあ連･天野屋連･岡田屋モアーズ連･川崎きさわか連(川崎区役所わいわい連)･川崎商工会議所連･川崎信用金庫連･川崎西武連･川崎BE連･川崎フロンター連･河原町1号棟連･教文連･ぎんぎん連(駅前商連連)･銀行連･こみや連･さいか屋連･市職連･第一ひかり幼稚園連･田原屋連･戸手中部女躰連･日本航空連･ハクビ連･ペリカン連･丸井･ルフロン連･みやこ連･宮小地域連･宮前小子ども連
【ゲスト連】大田区役所くすのき連･埼玉葵連･川崎銀杏連･高円寺写楽連･高円寺天水連･港北阿波踊り連名(綱島連)･小金井さくら連･下北沢やっとこ連･多摩川丸子連･東京えびす連･徳島八千代連・いきいき連・相州大和あずま連・舞龍連(おどりっこ)・ほおずき連・乙奴連(オドレン)・三茶連・鳳連・南粋連・湘南なぎさ連・燦々（さんさん）・みたか・はむら連

関連シート

(1-21)アゼリア･宇宙カプセル
(1-23)銀柳街･銀座街

「かわさき区の宝物」とは？ ☞ http://www.city.kawasaki.jp/kawasaki/category/94-10-2-7-2-1-0-0-0-0.html

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-23

ぎんりゅうがい・ぎんざがい
銀柳街・銀座街

昭和21年、植樹された柳（現在の薬局前あたり）と昭和27年の宵のにぎわい

昭和56年の銀座街

現在の個性的なアーケード施設

写真提供：小串嘉男氏、馬場義弘氏、川崎銀柳街商業協同組合

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	通年
		日時	

目的	□ 観る　□ 遊ぶ・体験する □ 食べる　■ その他
宝物定義	□ ものづくり　■ イベント・祭り □ 味づくり　■ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり □ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	川崎区駅前本町～砂子1･2丁目
問い合わせ	川崎銀柳街商業協同組合 川崎銀座商業協同組合
TEL	044-233-1666（銀柳街） 044-222-9111（銀座街）
FAX	044-233-1666（銀柳街） 044-222-9111（銀座街）
E-mail	jimukyoku1666@ginryugai.or.jp（銀柳街） info@kawasaki-ginza.com（銀座街）
URL	http://www.ginryugai.or.jp/ (銀柳街) http://www.e-town.ne.jp/kawasaki/shop/67/index.html (銀座街)
交通	JR川崎駅より徒歩5分 京急川崎駅よりすぐ（銀座街）

マップ

基礎情報

■銀柳街は、市役所通りと新川通りを結ぶ昭和24年(1949)5月に小売店など10店が集まって興した商店街。平成6年(1994)に設置された国内最大級のステンドグラスをあしらったアーチと開閉式の屋根が特徴。延長250mの街路の両側にバラエティに富んだ約50もの店舗を擁している。
■銀座街は、京急川崎駅前にあり、駅から市役所通りに抜けるメインロードと市役所通り沿いのＬ字型の商店街。約30の店舗が並び、終日歩行者天国を実施している。
■1年を通して、銀柳街、銀座街において、季節に応じた様々なイベントが開かれ、ストリートライブや各店舗でのワゴンセールが行われる。銀座街では、ほぼ毎週末ストリートライブが行われ、県内外から多くのアーティストが出演している。

由来・エピソード

■現在の銀柳街･銀座街にはかつて古川という一面アシに覆われた川が流れていた。昭和10年頃に埋め立てられ下水設備なども整備され徐々に発展したが、戦禍によりまた元の荒廃した状態に戻ってしまった。戦災による川崎市の打撃は大きく、特に中央地区は破滅に瀕する状態だったというが、終戦直前に開業した川崎銀星座を皮切りとした川崎映画街（銀映街）の活況によって、人の流れは旧東海道から映画通り（古川通り）へと大きく変わった。そして通りの商店街振興のため有志によって設立されたのが銀柳街商業組合である。当初は任意組合として発足し、昭和24年(1949)9月に協同組合組織に変更された。追って同年12月に川崎東銀会商業協同組合も設立された。現在の銀座商業協同組合である。京急川崎駅から銀座街、銀柳街、銀映街と続く通りは市内一の繁華街へと発展した。
■銀柳街の名の由来は、戦禍による荒んだ気持ちを和らげようと住民の手で植樹され、柔軟ながら良く風雪に耐える「柳」、荘重にして深き光をたたえる「銀」をあしらったという。柳の木は川崎映画街の創業者･美須鐶氏の寄贈によるものであった。
■また、商店街の発展とともに大型百貨店も開業･進出を果たした。昭和2年(1927)に旧街道沿いの場所に開業していた小美屋百貨店（旧小美屋呉服店）は、昭和26年(1951)に銀座街の一角、駅前広場角地に新店舗を構え、中古呉服業を営んでいた岡田屋も昭和30年(1955)に現在地に百貨店をオープンさせた。戦前から横須賀で百貨店を経営していたさいか屋は昭和31年(1956)に銀映街の一角に進出した（後年本拠地を川崎へ移転）。昭和38～39年(1963～1964)には銀柳街、銀座街で念願の現代的なアーケード施設が誕生、その後の幾度かのリニューアル改修を重ねて現在に至り、終日多くの買物客で賑わいを見せている。
■やがて東口駅前再開発事業にともなう昭和60年(1985)以降の地下街アゼリア、川崎ルフロン、川崎BE、チネチッタ等のオープンによってJR川崎駅前から銀座街･銀柳街･東田町･小川町に至る広域な一大商業集積地が形成され、近年でも平成14年(2002)のラ チッタデッラのオープン、平成15年(2003)の旧･小美屋デパート跡地での次世代型商業施設「DICE(ダイス)」のオープンと今なお一帯は抜群の集客力を誇っている。今日のこうした発展の出発点は戦後の焼け跡から復興に向けて地道に汗を流してきた地元商店街の人々の尽力の結晶であるといえる。

補足・その他

■毎年10月に開催される「かわさき阿波おどり」では、銀柳街･銀座街を中心とするお膝元･駅前商連が募った一般市民が参加する「ぎんぎん連」が常連チームとして奮闘している。平成17年(2005)の20周年記念大会では念願の初優勝を果たし、堂々の強豪チームへと変貌をとげたという。

関連シート

(1-21)アゼリア･宇宙カプセル
(1-22)かわさき阿波おどり
(1-24)銀柳街アーケード
(2-3)ラ チッタデッラ
(2-4)カワサキ ハロウィン
(2-5)銀映会(川崎映画街)

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-24

ぎんりゅうがいあーけーど
銀柳街アーケード

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	通年
		日時	

目的	□ 観る　□ 遊ぶ・体験する □ 食べる　■ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　■ にぎわい ■ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり □ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	川崎区砂子2丁目～駅前本町
問い合わせ	川崎銀柳街商業協同組合
TEL	044-233-1666
FAX	
E-mail	jimukyoku1666@ginryugai.or.jp
URL	http://www.ginryugai.or.jp/ （銀柳街ＨＰ）
交通	ＪＲ川崎駅より徒歩5分 京急川崎駅より徒歩5分

マップ

基礎情報

■銀柳街は、JR川崎駅前の市役所通りから新川通りを結ぶ延長約250mの商店街。銀座街とともに古くから買い物客を集め、川崎駅前の賑わいの中心となっている。通りを美しく彩り、買い物客の目を楽しませているアーケードには、様々な工夫が施されている。天井部分は換気や採光に優れた開閉式で、多数のステンドグラスや天窓がはめ込まれている。また、市役所通りと新川通りに面するアーケードへの入口部分には、国内最大級と言われる大型のステンドグラスアーチが設置され、銀柳街の顔として川崎を歩く人々を引きつけている。

由来・エピソード

■昭和53年(1978)5月、老朽化したアーケードの改装計画において、川崎市第一の商店街らしい、新しい明るいイメージのあるアーケードへの建て替えが計画された。雨を防ぐという実用的な視点から設計されたそれまでのアーケードとは違い、火災や地震にも対応できる防災性や人をひきつける話題性、買い物客が楽しくショッピングできる機能性などの観点から検討がなされた。その結果、天井中央部を換気や採光ができる開閉式とし、全体にカラフルで明るい雰囲気を醸し出す25枚のステンドグラスを用いること、開閉部以外にも天窓として強化プラスチックを使用し、太陽光をふんだんに取り入れられる省エネ型のアーケードとすることとした。こうして新アーケード「ウィロード」は、総工費4億5千万円をかけ、昭和55年(1980)に完成した。
■平成3年(1991)、アーケード入口のアーチが老朽化し改装が課題となった際には、街づくりの視点を加えたアーチの改装が検討された。「銀柳街は川崎全体のイメージに影響を与える、いわば表玄関の商店街。ヨコハマにはない新しい川崎らしさのアイデンティティ(独自性)を創造すること」という基本発想が設定され、首都圏には見られない「ステンドグラスアーケードの魅力」を銀柳街のアイデンティティとしてさらに伸ばすこととなった。ステンドグラスのモチーフは、銀柳街の内部装飾によく使われており、環境を大切にするという時代や心の豊かさを連想させる「花」を用いることになった。
■飽きられることなく、時を経て光を増すものにするため、それまで一貫して花をモチーフとしたステンドグラスを創造しつづけてきた持田真理子氏を設計に起用することとなった。持田氏の情熱のもと、平成6年(1994)、全長15メートルにもおよぶ手造りのステンドグラスアーチが完成した。
■アーチは「花とステンドグラスのある街」をテーマとして2枚で1つの作品となっている。虹の神「アイリス」と繁栄の神「ユリ」がそれぞれ虹と太陽の光で包まれ、四季折々の花がその周りを取り囲んでいる様子を表しており、街を通る人々の心と商店街を繋ぐ掛け橋となるよう願いが込められている。

補足・その他

関連シート

(1-22)かわさき阿波おどり
(1-23)銀柳街･銀座街

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-25

さとうほんじんあと・さとうそうのすけのひ

佐藤本陣跡・佐藤惣之助の碑

エリア	中央地区	シーズン	通年
	川崎駅前北	日時	

目的	■ 観る　□ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　□ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　■ 人物

所在地	川崎区砂子2-11(碑) 川崎区砂子2-4(本陣跡)
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会 東海道かわさき宿交流館
TEL	044-221-9117（かわさき歴史ガイド協会） 044-280-7321（東海道かわさき宿交流館）
FAX	044-221-9117（かわさき歴史ガイド協会） 044-280-7314（東海道かわさき宿交流館）
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅より徒歩10分

マップ

基礎情報

■川崎宿にあった三つの本陣（大名や公家専用の大旅館）の一つ。別名、惣左衛門本陣といわれ、門構え、玄関付、181坪の建物だった。幕末には14代将軍家茂が、京に上る際に宿泊したことでも知られる。平成19(2007)年に佐藤本陣跡の解説板が設置された。
■大正時代に活躍した詩人で歌謡曲の作詞家としても有名な佐藤惣之助は、代々本陣職を務めてきた佐藤家の生まれ。本陣跡の向かい側、川崎信用金庫本店前には昭和54年(1979)に生誕の地記念碑が建てられ、円鍔勝三氏による彫像と嗣子･佐藤沙羅夫氏による揮毫の『青い背広で』の詩が刻まれる。

由来・エピソード

■本陣とは宿場の中心地にある大旅館のことで、大名や公家など限られた人々しか宿泊することができなかった。佐藤本陣（惣佐衛門本陣）は上の本陣とも呼ばれた。これは川崎宿にあった本陣を、京都に近いほうから、上、中（惣兵衛本陣）、下（田中本陣）としていたことによる。
■惣之助が生まれた頃、佐藤家は雑貨商「藤屋」を営んでおり、住居は今の銀柳街沿いにあった。当時、この通りには古川という川が流れており、釣好きの惣之助は古川や多摩川などでよく釣り竿を垂らしていたという。
■川崎宿周辺には川崎信用金庫本店前のほかにも惣之助の詩碑が置かれている。川崎市体育館前の碑は、昭和30年(1955)に川崎市文化協会が武者小路実篤に『華やかな散歩』の一節を揮毫してもらい建立したもの。また、惣之助が幼い頃、山王祭りの日に横浜から遊びにくる親類の女の児への想いを綴った『祭りの日』の碑が稲毛神社境内に建つ。その幼い客こそ後の花枝夫人であり、惣之助夫妻生誕100年を記念して昭和62年(1987)に川崎今昔会が建立したものである。

補足・その他

関連シート

(32-4)佐藤惣之助

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-26

きゅうたちばなぐんやくしょあと
旧橘樹郡役所跡

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	通年
		日時	

目的	■ 観る　□ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　□ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	川崎区砂子2-10
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会
TEL	044-221-9117
FAX	044-221-9117
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅より徒歩10分

マップ

基礎情報

■明治維新の後、川崎市のほぼ全域と横浜市鶴見区・神奈川区などは「神奈川県橘樹郡」という行政区域に含まれていた。明治34年(1901)に神奈川町（現在の横浜市神奈川区）が横浜市に編入されると、大正2年(1913)に川崎宿の中心であった砂子（現在の川崎区砂子）に置いた。
■平成16年(2004)3月、郡役所の川崎移転から90年、川崎市制80周年を記念して、「旧橘樹郡役所跡記念碑」が建立された。

由来・エピソード

■明治11年(1878)、郡区町村編制法によって、神奈川町成仏寺（現横浜市神奈川区）に橘樹郡役所が設置され、橘樹郡内10町111村の行政を司った。その後郡制が施行されると、郡長のもと各地代表の郡会議員により、道路・治水・教育・産業などが議せられた。明治34年(1901)、神奈川町の横浜市編入により、橘樹郡の中心は産業開発著しい川崎町に移り、大正2年(1913)には川崎町砂子に威風堂々とした郡役所が建てられ、川崎・保土ヶ谷2町と17村の行政にあたった。郡南部の臨海埋立地には京浜工業地帯が形成され、人口増加による都市化が進む一方、北部農村地帯も私鉄の沿線開発や近郊農業の発達などにより大きく変貌した。
■大正13年(1924)川崎に市政が施行され、大正15年(1926)に郡役所は廃止された。また、その後の川崎・横浜の市域拡張によって昭和13年(1938)には半世紀にわたり親しまれた「橘樹郡」の名は消えることになった。

補足・その他

■橘樹郡を現在の行政区画でみると、概ね川崎市川崎区・幸区・中原区・高津区・宮前区・多摩区・麻生区の一部、横浜市鶴見区・神奈川区・港北区の一部・保土ヶ谷区の一部に相当する。
■昭和13年(1938)10月に現・多摩区の稲田町、生田村と宮前区の向丘村、宮前村の川崎市への編入をもって橘樹郡は消滅した。

関連シート

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-27

いいじゃんかわさき

いいじゃんかわさき

写真提供：いいじゃんかわさき実行委員会

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	秋
		日時	10月

目的	■ 観る　■ 遊ぶ・体験する ■ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　■ イベント・祭り □ 味づくり　■ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり □ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	JR川崎駅東口周辺の商店街
問い合わせ	いいじゃんかわさき実行委員会
TEL	
FAX	
E-mail	
URL	http://www.iijan-kawasaki.com/ （「いいじゃんかわさき」HP）
交通	JR川崎駅・京急川崎駅より徒歩3分～

マップ

基礎情報

■毎年10月、JR川崎駅東口周辺の近隣6商店街（たちばな通り・パレール商店会・仲見世通り・東田あべにゅー・平和通り・いさご通り）合同で盛大に催されるイベント。平成5年(1993)より開始し、市内外からたくさんの観光客で賑わう地元発の手作りイベントとして定着している。
■「川崎って東京の下町みたいに人情味があって気取らない街でいいじゃん！」「物も安いし、いろいろなお店が揃っていいじゃん！」という他市や他県へのアピールをイメージして名付けられた。各商店街が協力して七福神スタンプラリー、リサイクル・フリーマーケット、ステージコンサート、大道芸、飲食模擬店、縁日コーナーなど多彩なイベントと催しが開催される。

由来・エピソード

■七福神めぐりスタンプラリーは、東田公園をスタート地点として、6商店街と市役所前のそれぞれの七福神を順番にめぐってスタンプを集め、抽選会で各種賞品が当たるイベント。
　東田公園(START)⇒平和通り【弁財天】⇒パレール【毘沙門天】⇒市役所前【寿老人】⇒東田アベニュー【布袋】
　⇒たちばな通り【恵比寿】⇒仲見世通り【大黒天】⇒いさご通り【福禄寿】⇒東田公園(GOAL･抽選会)
■各商店街の紹介
○たちばな通り商店街／総店舗数約150店。OLや三世代ファミリーも楽しめる雰囲気の街づくりを目指す。川崎市の景観形成地区第1号に指定され、飲食店・物販店と金融機関・市役所まで揃う便利な商店街。
○パレール商店会／平成2年(1990)10月に川崎の新しい顔として東田町8番地に誕生。中庭を囲んで36の専門店などが入る商業ビル、川崎区役所等が入るオフィスビル、住宅がある高層ビル、駐車場ビルの4棟で構成。平成12年(2000)の10周年記念には「グリーン館・レッド館・ブルー館・イエロー館」とカラフルにリニューアルされた。
○仲見世通商店街／約400mの活気に溢れた飲食店街。いいじゃんかわさきでは飲食の町として多くの模擬店が出店。和太鼓や大道芸などが催される。
○東田アベニュー／終戦直後の昭和22年(1947)に出来た30店舗の老舗商店街。小さな商店街だがバラエティーに富み地元で昔から愛される。昭和60年(1985)の共同ビル完成と同時にアーケードを取り外し明るい商店街に生まれ変わった。
○平和通り商店街／国道15号線から一筋駅よりの商店街で戦後の混乱期に誕生。モール化された街路はやすらぎを感じる明るい町並み。
○いさご通り商店街／東海道川崎宿の中心だった砂子通りの商店街で市役所通りと駅前大通りを結ぶ。ファッション関連や物販店、飲食店が揃い、銀行等の金融機関も点在。常緑樹の並木の続く落ち着いた佇まいが愛されている。

補足・その他

関連シート

(1-11)川崎市役所市庁舎
(1-22)かわさき阿波おどり
(10-9)かわさき大師サマーフェスタ
(20-1)桜本商店街日本のまつり

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-28

しゃったーうきよえぎゃらりー

シャッター浮世絵ギャラリー

エリア	中央地区 川崎駅前北～川崎駅前南～八丁畷	シーズン	通年
		日時	

目的	■ 観る　□ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　□ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	川崎区本町1～2丁目、砂子1～2丁目、小川町、日進町、下並木
問い合わせ	川崎区役所まちづくり推進部地域振興課
TEL	044-201-3136
FAX	044-201-3209
E-mail	61tisin@city.kawasaki.jp
URL	http://www.city.kawasaki.jp/61/61kusei/kawasakijuku/in （東海道川崎宿2023）
交通	

マップ

基礎情報

■「東海道川崎宿2023」と川崎区役所は、かつての東海道川崎宿にあたる本町、砂子、小川町の商店街などに、江戸時代当時の宿場町としての面影を残す事物が少ないため、地域の協力を得て、通り沿いの店舗のシャッターに浮世絵を設置する取り組みを実施している。
■シャッターには歌川広重作の「東海道五拾三次 川崎（六郷渡舟）」のほか、同作の東海道五拾三次などの浮世絵が描かれ、江戸時代当時の東海道の賑わいを偲ぶことができる。協力店舗は薬局、寿司屋、酒屋など、多岐にわたっている。

由来・エピソード

■「東海道川崎宿2023」は、東海道川崎宿の歴史や文化を活かしたまちづくりを進める団体。「2023」は、東海道川崎宿が成立した元和9年(1623)から400年目の平成35年(2023)のことを示している。市民が提案した「東海道川崎宿2023いきいき作戦」では、節目となる2023年に向けて、東海道沿道を5つに分けたゾーン構想や様々な取組案を明記したプロジェクトが示してあり、積極的な活動が行われている。
■シャッター浮世絵ギャラリーの整備は、浮世絵や川崎宿をイメージした絵を描くことにより、江戸時代のイメージを表出することや、商店が休業の場合に、単なるシャッターではなく、絵やイラストが描かれていることで、まちに彩りや華やかさを演出することをねらっている。商店や金融機関等のシャッターなどの公共・公益施設のウインドウに浮世絵や川崎宿をイメージした絵が描かれている。
■描かれている店舗と浮世絵は以下のとおり（平成28年(2016)3月現在）。
・歌川広重作 東海道五拾三次
　スイタヤ薬局：「原（朝之富士）」・生花ハナモン：「神奈川（台之景）」・高橋印房：「 川崎（六郷渡舟）」・やよひ鮨：「日本橋（朝之景）」「藤枝（人馬継立）」「京師（三条大橋）」・まるだい：「白須賀（汐見阪図）」「小田原（酒匂川）」・さくら舛ビルディング「戸塚（元町別道）」・福来屋酒店：「吉原（左富士）」・真行寺風呂店：「舞坂（今切真景）」・天國：「保土ヶ谷（新町橋）」
・長谷川雪旦作 江戸名所図会
　高橋印房：「河崎宗三寺」

補足・その他

■平成26年（2014）7月、川崎信用金庫本店（砂子2-11-1）のシャッター11面全てに、歌川広重作の「東海道五拾三次」の浮世絵が描かれた。シャッターに描かれた全ての浮世絵が見られるのは、午後10時00分から午前7時00分までのシャッターが閉まっている時間帯。

関連シート

(1-1)川崎宿
(1-29)いさご通り

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-29

いさごどおり
いさご通り

写真提供：川崎砂子会協同組合

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	通年
		日時	

目的	■ 観る　□ 遊ぶ・体験する ■ 食べる　■ その他
宝物定義	□ ものづくり　■ イベント・祭り □ 味づくり　■ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	川崎区砂子2丁目
問い合わせ	川崎砂子会協同組合
TEL	044-222-5187
FAX	044-211-0743
E-mail	muto@major.ocn.ne.jp
URL	
交通	ＪＲ川崎駅・京急川崎駅より徒歩5分

マップ

基礎情報

■川崎駅前の市役所通りと駅前大通りを結び、衣料スーパー、時計宝飾、提灯額縁、結納品等の物販店、美容院、金融機関等のサービス業や割烹、居酒屋、中華料理店などの飲食店等、様々な店が軒を連ねる商店街。昼夜問わず人が行き交い、川崎駅東口周辺の賑わいを支えている。
■いさご通りの歴史は古く、江戸時代には東海道五十三次の宿場である「川崎宿」の中心として旅人や商人たちで大変な活気をみせた。川崎には老舗といわれる店が多いとされるが、いさご通りの歴史が物語っている。
■現在では、街を盛り上げる取り組みとして、江戸商人の姿を映した浮世絵の設置や、6商店街が共同で行うイベント「いいじゃんかわさき」、アジア料理屋台村やアジア交流ステージで賑わう「アジアンフェスタ」、バスカー（ストリートミュージシャン）が出演する野外フリーライブ「街角ミュージック」、年末年始に行われる竹製イルミネーションなど、様々な催しが行われている。

由来・エピソード

■砂子（いさご）という地名は、六郷川（現在の多摩川）の河口付近に形成された砂質の州に人が住み始めて名付けられたと言われている。もともとは砂浜の低地であったため、六郷川の氾濫時には冠水の被害に見舞われる地域でもあった。そのため、旧東海道は砂州の微高地上を通るよう配慮がなされ、さらに川崎宿の設置にあたっては宿域に盛土が施されたという。現在でも砂子から小土呂あたりを歩いてみると、旧街道筋が周囲よりも幾分か高いことがわかる。
■江戸中期の川崎宿は砂子、小土呂、新宿、久根崎で構成され、様々な商人や職人が住む770戸、人口3100人の宿場町であった。幕末までの最盛期は、六郷の渡し船を待つ旅行者や川崎大師へ向かう参拝客などで大いに賑わったという。また砂子には幕府の書状や荷物の受け取り、公用旅行者のための宿の手配、参勤交代の大名の送り迎えなどを行う問屋場、幕府や領主の定めを記した高札を立てる高札場があり、立地、賑わいともに川崎宿の中心となっていた。
■明治5年(1872)には新橋～横浜間に鉄道が開通し、川崎停車場が開設されると、川崎宿は宿としての機能をほぼ失った。やがて都市としての整備が始まり、明治22年(1889)には川崎宿と堀之内村が統合して川崎町が誕生し、昭和39年(1964)の区画整理では現在の砂子1～2丁目、東田町、駅前本町が成立した。
■現在、地元商店街の取り組みにより、通りには周辺の地図と現在地を記した案内版が設置され、その裏側には当時の宿場での商いの様子がうかがえる浮世絵が貼られている。例えば、簡単な屋根と柱付きの屋台に風鈴をつるし、夜間に蕎麦を売り歩いた「風鈴そば」、4本の割り竹を柱として簡単に編み、すだれをつけた「四つ手駕篭」、ひな祭りに天秤棒を担ぎ「山川白酒」と記した桶で白酒を売り歩いた「白酒売り」などである。ほかにも「塩売り」「八百屋」「時計師」「麦めし売り」「魚屋」などといった商人たちの浮世絵が、案内版とともに置かれている。

補足・その他

■毎年10月中旬に川崎駅周辺の6商店街によって行われるイベント「いいじゃんかわさき」では、ミュージックカフェテラスISAGOや、いさご茶屋、青空バザーなどが催されている。また、川崎信用金庫本店ふれあい広場では毎月2日間、「いさご通り街角ミュージック」が行われ、ジャズやバイオリン、ポップス、演歌など様々なジャンルのミュージシャンによる歌と演奏を聞くことができる。
■12月中旬～1月中旬には、いさご通り商店街と近隣商店街が共催する合同イルミネーションが行われ、いさご通りでは竹製の手作りイルミネーションが数多く設置され、撤去後の竹は貯金箱、花生け等に加工し、無料配布される。

関連シート

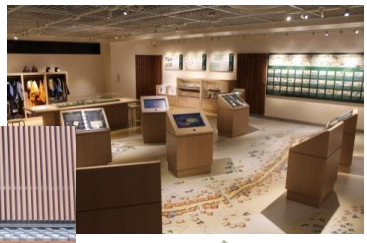
(1-1)川崎宿
(1-27)いいじゃんかわさき

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-30

とうかいどうかわさきしゅくこうりゅうかん

東海道かわさき宿交流館



東海道かわさき宿交流館公認キャラクター「六さん」

写真撮影・画像提供：川崎区役所地域振興課

エリア	中央地区 川崎駅前北	シーズン	通年
		日時	

目的	■ 観る　■ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　■ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	川崎市川崎区本町1丁目8-4
問い合わせ	東海道かわさき宿交流館
TEL	044-280-7321
FAX	044-280-7314
E-mail	—
URL	http://kawasakishuku.jp/ （東海道かわさき宿交流館）
交通	京急川崎駅より徒歩４分 JR川崎駅東口より徒歩９分

マップ

基礎情報

■平成25年（2013）10月、「東海道かわさき宿交流館」は、江戸時代の東海道の宿場であった東海道川崎宿の歴史文化を学び、それを後世に伝え、地域活動・地域交流拠点となる事を目指して、東海道沿いに設置された。
■1階から3階は展示室となっており、タッチパネルで操作できる映像や模型などにより、江戸時代の川崎宿の町並みを再現したり、川崎市の歴史、文化を掘り下げたりして学ぶことが出来る。また、まち歩きをされる方々が気軽に立ち寄ることができる休憩・交流スペースなども設けている。その他、4階には集会室などがある。なお、建物は駐輪場との合併施設となっている。
■１階の物販コーナーでは、「かわさき名産品」や東海道かわさき宿交流館公認キャラクター六さんのｵﾘｼﾞﾅﾙグッズなどが販売されている。

由来・エピソード

■気軽に立ち寄れる地域の交流拠点としての役割と同時に、映像・グラフィック等を活用し、楽しみながら地域の歴史と文化に触れることができる常設展、地域の歴史・文化を中心とする多様な地域の魅力を発信する企画展、文化団体や文化活動グループ等の協力を得て実施する各種文化イベント等、市の文化振興と文化芸術活動を活かしたまちづくりの一翼を担っている。
■平成26年（2014）11月、「かながわ観光大賞」のグランプリに輝き、平成27年（2015）8月には来館者数が10万人を突破した。

補足・その他

■展示室/休憩・交流スペース
【開館時間】 9:00～17:00
【休館日】 月曜（月曜日が「国民の祝日に関する法律」に規定する休日にあたるときは開館し、その直後の休日でない日を休館とします。）12月29日～1月3日
【入館料】 無料
■集会室・談話室
【開館時間】 9:00～21:00　【休館日】 12月29日～1月3日
※集会室・談話室は、利用料金制。

関連シート

(1-1)川崎宿

宝物No.
1-31

とうかいどうのうきよえがいろどるけいかん

東海道の浮世絵が彩る景観

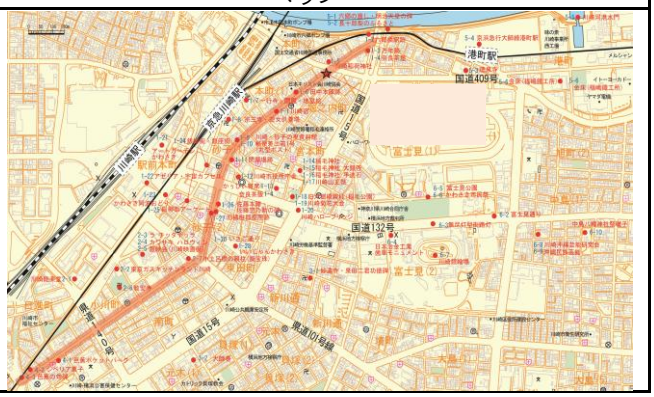
写真撮影：川崎区役所地域振興課

エリア	中央地区 川崎駅前北～川崎駅前南～八丁畷	シーズン	通年
		日時	

目的	■ 観る　□ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　■ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	川崎区本町1～2丁目、砂子1～2丁目、小川町、日進町、下並木
問い合わせ	川崎区役所まちづくり推進部地域振興課
TEL	044-201-3136
FAX	044-201-3209
E-mail	61tisin@city.kawasaki.jp
URL	
交通	

マップ



基礎情報

■「東海道川崎宿2023」と川崎区役所は、かつての東海道川崎宿にあたる本町、砂子、小川町付近に、江戸時代の宿場町をイメージできる景観を形成することや、賑わいを創出することを目的として、浮世絵を活用した景観創出の取組みを実施している。

由来・エピソード

■「東海道川崎宿2023」は、東海道川崎宿の歴史や文化を活かしたまちづくりを進める団体。「2023」は、東海道川崎宿が成立した元和9年(1623)から400年目の平成35年(2023)のことを示している。市民が提案した「東海道川崎宿2023いきいき作戦」では、節目となる2023年に向けて、東海道沿道を5つに分けたゾーン構想や様々な取組案を明記したプロジェクトが示してあり、積極的な活動が行われている。
■「浮世絵トランスボックス」
砂子一丁目付近の14か所（平成28年3月時点）のトランスボックス（変圧器）には、二代歌川豊国作「名勝八景 玉川秋月 玉川鮎汲の図」など、江戸時代の情景が描かれた浮世絵がラッピングされている。
■「東海道川崎宿浮世絵タペストリー」
　歌川広重作「東海道五拾三次　川崎（六郷渡舟）」が描かれたタペストリー。東海道沿いの店舗等の協力のもと、２２か所に設置されている（平成28年3月時点）。各店舗等に設置されているタペストリーは、街歩きをする人々や買い物客の目を楽しませている。
■「東海道川崎宿フラッグ」
　東海道沿いの街路灯に各商店街の協力のもと、東海道川崎宿フラッグが設置されている。フラッグには、「東海道中膝栗毛」の主人公「弥次さん喜多さん」をイメージしたキャラクターが描かれ、東海道川崎宿を街歩きする人々の道標となっている。
■「東海道川崎宿浮世絵ラッピング自販機」
　三代目歌川豊国が描いた「役者見立東海道五十三駅」の二枚が、砂子一丁目の二台の自販機にラッピングされている。浮世絵には、表情豊かな役者の姿と川崎付近の当時の情景が描かれている。

補足・その他

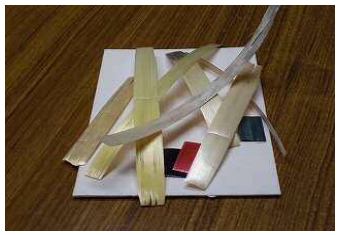
関連シート

(1-1)川崎宿
(1-28)シャッター浮世絵ギャラリー

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-32

かわさきしゅくむぎわらざいく
川崎宿麦わら細工


麦わら細工の絵葉書セット

川崎宿麦わら細工で作られた絵葉書

エリア	中央地区 川崎駅前北～川崎駅前南	シーズン	通年
		日時	

目的	□ 観る　■ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　□ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	川崎区内
問い合わせ	麦人(むぎんど)の会 代表　池田氏
TEL	044-333-0656
FAX	044-333-0656
E-mail	harumi87@cmail.plala.or.jp
URL	―
交通	―

麦人の会の活動紹介の様子

「川崎宿麦わら細工」体験の様子
写真提供:麦人の会

基礎情報

■麦わら細工は、江戸時代の享保年間（1716～36年）に大森の大林寺住職が村人に教えたのがはじまりと言われている。その後、大森名物として「東海道中膝栗毛」に取り上げられるなど土産物として定着し、次第に川崎にも広まった。
■麦わら細工には、木箱などに麦わらで絵や模様を描く「張り細工」と、麦わらを編んで動物などを作る「編み細工」の二つの技法がある。
■麦わら細工は明治時代に入ったあとも作られ続けたが、第二次大戦の頃に途絶えてしまった。

由来・エピソード

■川崎では、市民活動団体「麦人（むぎんど）の会」が発足し、同会によって麦わら細工の技術を伝える取り組みが行われている。
■麦人の会は、“東海道らしい”・“昔を偲ぶ”「お土産」として、麦わら細工を自分で作る「絵葉書セット」を考案した。その具体化にあたっては、大田区郷土博物館の学芸員らの協力があったという。
■「大森麦わら細工」は、鮮やかに着色されているのに対し、麦人の会によって現代に蘇った「川崎宿麦わら細工」は、麦を着色せず、美しい金箔のような輝きを大切にしている。

補足・その他

■麦人の会が制作している「川崎宿麦わら細工」絵葉書セットの材料は、宮前区水沢にある「はぐるま工房」のものを使用。また、台紙の葉書については、川崎区川中島の「ゆずりは園」で作成。このように「川崎宿麦わら細工」は、川崎市内のネットワークによって支えられている。
■麦わら細工で使う材料の麦は、本来は捨ててしまう部分を有効利用している。また、麦は芭蕉の句碑保存会が育てた麦も使用している。ストロー状の麦をリボン状にする仕上げ作業は、川崎区日進町の地域作業所「むぎの穂」が行っている。

関連シート

(1-1)川崎宿
(4-3)芭蕉の句碑

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-33

かわさきえきひがしぐちえきまえひろば

川崎駅東口駅前広場

エリア	中央地区 ―	シーズン	通年
		日時	

目的	■ 観る　□ 遊ぶ・体験する □ 食べる　■ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　■ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり □ 歴史的なもの　□ 人物

所在地	川崎区駅前本町26-1
問い合わせ	川崎市まちづくり局拠点整備推進室
TEL	044-200-3021
FAX	044-200-3967
E-mail	50kyoten@city.kawasaki.jp
URL	
交通	JR川崎駅より徒歩すぐ

マップ

※川崎市の承認を得て同市発行の都市計画基本図を複製したものです。
承認番号（川崎市指令ま計第１５９号）

基礎情報

■川崎駅東口駅前広場は、昭和61年(1986)に整備されてから20年以上が経過し、施設の老朽化や歩行者の移動の円滑化が十分に図られていないなどの課題があった。そこで、平成18年(2006)4月に策定された「川崎駅周辺総合整備計画」において、東口駅前広場における交通結節点の強化、回遊性の向上、バリアフリー化の促進など諸課題に対する基本方針が示された。翌年3月、市は「東口駅前広場再編整備計画」を策定。その後、同計画に基づき、再整備は進められ、平成23年(2011)3月に完了した。
■再整備が行われた現在の東口駅前広場は、バリアフリーに配慮した、シンボリックな駅前空間となっている。
■川崎市にはかつての公害対策で培った優れた環境技術を持つ多くの企業や研究機関が立地している。こうした環境技術を多くの人々が身近に感じることが出来るように、東口駅前広場全体を環境技術の展示場とすべく、太陽電池パネルによる自然エネルギーの活用や、光触媒など、川崎市内で研究・開発されている先端技術を導入した。

由来・エピソード

■主な特徴
【大屋根、サンライト】高い位置にガラスの大屋根を設け、見通しのよい、開放的な空間を確保。さらに大屋根と連続して、地下街を見通せるガラスの回廊を設けることで、地上と地下の回遊性を高めるとともに、東口から東西自由通路を経て、西口へ至る歩行者軸をつくっている。
【アースキャンドル】環境技術の展示場にふさわしいシンボルモニュメントとして換気塔を兼ねたシンプルな白い四角柱のタワーに、LEDの発光体を配置。気温、風向の変化によってLEDの色が変化することによって、歩行者が、環境の変化を視覚的に認識できる。
【太陽電池パネル】タクシーシェルターへ太陽光発電パネルを設置。特徴として、太陽光発電パネルを屋根面の上部に設置するのではなく、両面発電が可能なパネルをガラス素材の屋根面に挟み込むことで、発電効率を向上。発電した電気を広場内の照明やアースキャンドルの電気に利用し、広場内の道路照明をLED照明等とすることで、長寿命化と低消費電力に繋げ、より効率的なエネルギーの活用を図っている。
【東西連絡歩道橋】川崎駅の南側にある東西を結ぶ連絡歩道橋は、階段等により回遊性やバリアフリー上の課題が生じていたため、エレベーター、エスカレーターを新設し、階段の段差をスロープ構造のデッキで解消し、バリアフリー化を図った。
【平面横断、バス島の集約、ゆとりのある歩行者空間】7つに分断され、地下街からのアクセスのみとなっていたバス島を2つに集約し、歩行者が地上を平面で移動できるようにした。これによって、バリアフリーの問題を改善するとともに、歩行者の回遊とゆとりのある広場空間を生み出している。
【荷さばき場】川崎駅周辺では、路上駐車による交通容量の低下及び道路渋滞、バス停周辺における乗降環境の悪化が問題となっていた。路上駐車を無くし、街全体の魅力を高めることを目的として、荷さばき場を2カ所整備している。

補足・その他

■駅へと通じるガラス回廊中に「石敢當(いしがんとう)」と呼ばれる記念碑が設置されている。これは、1960（昭和35）年宮古台風災害に対して、川崎市議会が超党派で中心になり、全市で災害救援金の募金活動が行われ、その御礼として当時の琉球政府から贈られたものである。なお、石敢當とは古代中国の力士の名前で、この３文字を刻んだ碑を建てて厄除けとする風習が沖縄・南九州地方で伝承されている。

関連シート

(1-21)アゼリア・宇宙カプセル